

このマークの意味知っていますか??



男女共同参画シンボルマーク

平成21年に男女共同参画社会基本法制定10周年を迎えるにあたり、内閣府男女共同参画局が男女共同参画のシンボルマークを作成。男女が手を取り合っている様子をモチーフに互いに尊重しあい、共に歩いていけたらという願いが込められています。



マタニティマーク

厚生労働省が作成し、2006年より運用を開始、妊娠初期の体調不良や、事故、事件等の緊急時に「妊婦であること」を周囲に示す目的や、たばこの煙等妊婦さんへの配慮や、マークの掲示により妊婦さんにやさしい環境づくりの推進の目的もある。



女性に対する暴力の根絶のためのシンボルマーク

内閣府男女共同参画局ではDVの問題に対する社会における認識をさらに深めてもらうため、「女性に対する暴力の根絶のためのシンボルマーク」を制定。このシンボルマークは、女性が腕をクロスさせた姿で、女性に対する暴力を断固として拒絶する強い意志を表しています。



パープルリボン

女性への暴力の根絶を訴えるアウェアネスリボン。
パープルリボン運動は 1994 年にアメリカ合衆国ニューハンプシャー州のベルリンで始まり、日本ではNPO法人全国女性シェルターネットが中心となり、活動を展開している。活動の一例として2009年11月25日(女性に対する暴力撤廃国際日)の夜に東京タワーを紫色光でライトアップし、被害者に対して一人じゃないことを伝え、励ます意図が込められた。



ピンクリボン

乳がんの正しい知識を広め、乳がん検査の早期受診を推進するためのアウェアネスリボン。
女性の8人に1人が乳がんになる乳がん先進国アメリカで始まり、日本でも女性のうち乳がんを発症する割合は約12人に1人とされており、乳がん死亡する女性の数は年間約1万人弱とされ、ピンクリボン運動は年々拡大している。



オレンジリボン

「オレンジリボン運動」は子どもの虐待防止のための広報・啓発活動を行う市民運動。子供の明るい未来を表すオレンジ色のアウェアネスリボンをシンボルとしている。子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子どもの虐待問題に関心を持ってもらうことで、虐待のない社会を築くことを目指す。

* このアンケートの集計結果は12/10(月)～12/13(木)のパネル展(甲府市役所1F市民活動室)で展示させていただきます。ぜひお越しください。